

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 4 月 10 日作成)

小委員会名	住宅地計画小委員会		主 査 名：横山俊祐 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画委員会(住宅計画運営委員会)		委員長名：布野修司 主 査 名：高田光雄
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2012 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (簡条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域力を高め、居心地の良い住宅地を甦生するため、空間・社会・文化・制度等の多面的視点で既存住宅地の再生・更新手法を検討 ・住まいまちづくりを包括的・相互的に捉え、住宅地の持続的進化や活性化に向けての計画パラダイムの構築、及び実践手法の提起 ・2009 年度：公開シンポジウム・見学会、事例研究会、 ・2010 年度：公開シンポジウム・見学会、事例研究会、出版企画 ・2011 年度：研究会、研究シンポジウム企画、出版 		
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有		
	横山俊祐(大阪市立大学)・徳尾野徹(大阪市立大学)・森永良丙(千葉大学) 小浦久子(大阪大学)・江川直樹(関西大学)・菊地成朋(九州大学) 寺川政司(CASE)・山本理(長谷工総合研究所)・野澤康(工学院大学) 田中友章(明治大学・フォルムス)・阿部順子(椙山女学園大学)・伊丹康二(大阪大学) 森傑(北海道大学)・田上健一(九州大学)・三谷幸司(四天王寺大学・三谷都市建築設計室)		
設置 WG (WG 名：目的)	住宅地のリノベーションデザイン WG：既存住宅地の抱える様々な課題に関する具体的事例を地域特性別に収集、整理。事例研究会のための情報収集と資料作成。		
2008 年度予算	195,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価	
委員会開催数	4 回	
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)		
講習会	参加者数	名
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1.(名称)関西密集市街地改善事例見学・研究会 (資料名)第2回住宅地計画小委員会資料集	参加者数 14 名
	2.(名称)中部地域計画的住宅地事例見学・研究会 (資料名)第3回住宅地計画小委員会資料集	参加者数 20 名
	3.(名称)横浜地域改善事例見学・研究会 (資料名)第4回住宅地計画小委員会資料集	参加者数 12 名
大会研究集会		
対外的意見表明・パブリックコメント等		

<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 研究会のみを予定していた活動計画を展開して、毎回、各地の多様な住宅地（密集市街地・計画的住宅地・劣悪住宅地）の事例見学会とそれを評価する研究会をセットで行った。より即地的・具体的に既成住宅地の課題や可能性の検討、経年的な変化や成果の確認が行え、当初計画を上回る成果を達成できた。</p> <p>2. 事例見学を行ったことで、当該市街地のまちづくりに関わる専門家や密集市街地整備や地域改善の設計者・企画者・主導者・居住者などの話を直に聞くことができ、住宅地の再生手法に関する実践的で多面的な意見交換ができた。</p> <p>3. 見学事例の概要と評価を毎回報告書にまとめ、2011年度の出版に向けての基礎資料を蓄積した。</p>
<p>委員会活動の問題点・課題</p>	<p>1. 旅費：委員は北海道から九州まで広域であり、また、関西圏も約半数を占める。1回の研究会で、予算の全額を使い切ることになる。旅費に応じて各小委員会の予算を傾斜配分することを検討していただきたい。</p>

* 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。